



財務部から

財務部 部長
北野 明 宣

財務部は会計経理および会館の管理運営が主な業務で、私が部長を務めております。副部長は三戸常任理事、部員は櫻井常任理事で、事務担当は財務課になっている。

会計と経理は公益法人会計基準に準拠した予算の執行、決算処理、入出金、現金預金の管理および固定資産の取得、管理および処分に関することが業務である。

会館の管理運営についてはテナントの入退去、駐車場、会議室の利用および会館の付属設備の保守、整理、その他防災対策等に関することが業務である。

平成22年7月25日第1回定款等検討委員会にて公益法人制度改革への対応の検討を始め、平成24年9月16日の第138回臨時時代議員会で一般社団法人への移行を承認された。平成25年4月1日より北海道医師会是一般社団法人北海道医師会として認可され、初めて平成25年度決算は新法人で決算を行うことになった。

一般社団法人の決算は従来からの収支決算を中心とした決算でなく、財務諸表等が決算承認書類になった。主として貸借対照表、正味財産計算書ならびに附属明細、内部管理資料(収支計算書)、説明資料が決算承認となった。

また、一般社団法人になったことに伴い今後7年間は毎年「公益目的支出計画報告書」を北海道に提出する義務が発生した。

正味財産増減計算書を新様式に変更したことによるメリットは、法人全体の決算がベースになるため常に法人の全体像が明らかになり、かつ継続1から継続5の事業部門ごとの収支を明らかにできることである。

内部監査、外部監査について

内部監査は毎年1月と5月に開催し、水元修治、中村興治、大口正樹の監事3名で年2回行われている。外部監査は内部監査と同様に年2回開催し、監査人は公認会計士 酒井純、納税申告を山崎公認会計士事務所 山崎駿が行っている。

当会における収支バランスは過去10年間健全な状態を保っている。

補助金、受託金はこの数年、微増ながら良好な傾

びを示し医師会活動が健全な歩みをしていることを示している。

しかし、今後の北海道医師会運営の中で会員数、会員賦課、会館保全について課題があり、以下この2つについて述べる。

1. 会員数、会費収入減少と会費減免者数の増加

昭和22年11月1日、新生北海道医師会が田中敏文北海道知事の許可により設立されてから68年経過した。以来会員数や各部において右肩上がりの成長を得てきたが、最近その成長にも陰りが見え始めている。北海道の医師数は過去5年間増加傾向にあるが会員数は平成21年8,394人をピークに減少に転じている。平成27年4月1日現在は8,166人となっており、A会員は過去10年間減少傾向にあり、平成27年4月1日現在2,485人(2,669~2,281人)で、B1、B2会員は増加の傾向、C1~C3会員は減少している。A会員の減少による会費納入額の減少が認められている。会費増額や新入会員増加ならびに勤務医の入会勧奨を行ってきたがその結果は芳しいものではない。

平成24年度で全道医師数に対する医師会入会者は64.8%で全道医師数は増加傾向にあるも会員数の減少に伴い入会率が減っている。それに加えてさらに減免者の増加があり、過去12年間で470人(5.9%)から1,026人(12.2%)、約2倍。金額にして12,416,000円から26,776,000円(2.15倍)となっている。平成12年度では定額207,570,000円、減免者470人(5.9%)、減免適用額12,416,000円(5.98%)が、平成23年度では定額206,788,000円、減免適用者数1,026人(12.2%)2.18倍、減免適用額26,776,000円(12.95%)2.15倍となっている。これは会費収入の4.2%を占め、減少に転じている。

昭和47年度施行した定額会費を昭和50年度に9,000円から1万円、昭和58年度から21,000円、平成9年度より36,000円に改定し平成15年度より据え置きとしてきた。定率会費の率の変更について昭和49年度1000分の1(社保、国保の支払い金額4分の1)、昭和47年度1000分の1.5、上限8,000円、昭和50年度1000分の1.7、平成9年度1000分の1.9、上限25,000円とし、平成26年度6月よりグループ経営病院も各病院ごと管理者に賦課することに変更した。

その効果もあり平成20年度をピークに減少した会費収入も26年度でわずかながら改善を認めた。

2. 会館維持管理について

会館管理部門における賃貸料はそれまで賃料を高め設定していたため、平成9年度より賃料を据え置きとしており、入居状況は現在のところ、16社、



貸倉庫3社、その他は北海道医師会使用部分となっており入居率100%を維持している。過去10年間安定基調で順調に推移している。会館管理収支差額も平成21年度～23年度で一時落ち込んだがその後回復し、事業活動収入に対して10%前後に推移し、人件費は事業活動収入の29～25%の範囲にあり、総人件費は職員の若返りにより減少傾向にある。

現北海道医師会館は平成27年4月現在、建築後39年経過した。平成8年度より保全工事を実施してきたが東日本大震災を機に会館の保全計画見直しを図り、平成24年度より耐震度老朽化診断を行った。会館耐震強度は震度5までであるが、24年度の中長期保全計画検討委員会によると会館本体は今後20～30年程度は使用に耐えうるものと判断された。しかし、会館空調等の設備の老朽化が認められ、数年以

内に設備改修工事を行う事が望ましいとの提言を受けている。建て替え費用として平成24年当時22億4,000万円必要と積算された。仮に20億円を会員から拠出したとしても借入金7億円（平成24年12月10日当時 第4回会館中長期保全計画検討委員会報告）となり、その返済負担は厳しいとの判断から早急な耐震化補強工事の実施は見送り、当面は当初予定の通り会館中長期保全改修工事を実施、会館維持管理に務め、また将来の改築を念頭に毎年計画的に約1億円程度の改修費積立を行っていくという結論に達した。今後20～30年の間に会館全面改築工事に向けての資金調達および工事計画を検討していくことが望ましいと考えられ、その方針に基づいて平成28年から29年の工期約1年の改修工事を行うべく、現在検討中である。

平成27年春の叙勲受章者（北海道医師会）

先般、平成27年春の叙勲・褒章受章者が発表され、当会会員で以下の方々叙勲の榮譽に浴されました。ここに受章者の方々のご功績をたたえ、謹んでご芳名を掲載させていただきます（敬称略）。
受章者各位には、心からお祝いを申し上げます。

◇旭日双光章

小林 公民 元 社空知医師会会長
保健衛生功労

◇旭日双光章

山下 裕久 元 北海道旭川方面公安委員会
委員長 警察管理運営功労

◇旭日双光章

山光 進 元 社札幌市医師会会長
保健衛生功労

◇瑞宝中綬章

安孫子 保 旭川医科大学名誉教授
教育研究功労

◇瑞宝中綬章

阿部 弘 北海道大学名誉教授
教育研究功労

◇瑞宝小綬章

石井 隆司 現 石井病院院長
保健衛生功労